



小城市立歴史資料館 * 中林梧竹記念館だより

書聖中林梧竹翁顕彰席書会が 開催されました

第30回書聖中林梧竹翁顕彰席書会が、8月25日(日)にドゥイング三日月で開催され、幼児から大人まで396人が参加されました。

この大会は小城出身で近代書道の祖といわれている書聖中林梧竹を記念して開催しているもので、書道教育の促進と書道に関する新たな人材の発掘を目的としています。参加した皆さんは満足いく作品を目指し、課題に挑戦されました。



▲席書会の様子

「おぎを掘るⅧ」を開催中です

地中に眠っていた郷土の歴史に接することができる機会として、過去、発掘調査を行った牛津町生立ヶ里遺跡で出土した遺物や、昨年、市内で行った確認調査で出土した遺物を展示しています。

また、発掘調査の内容、現地作業の様子が分かるパネルや、発掘調査の記録をまとめた報告書の展示を行っています。

◆期間 ~10月20日(日)

◆場所 歴史資料館 企画展示室

◆入場料 無料



▲生立ヶ里遺跡出土槽そう (佐賀県重要文化財)

おぎの歴史探検隊

異説・青木繁の《朝日》〈その3〉

小城郷土史研究会

青木を養うには平島もまだ若く、教師としての給料も少なかった。

そこで平島は小城中学校(現在の小城高等学校)より金銭借用を求め、生活と療養費に充てていたのではないだろうか。

それらの借用書は大阪の某家に残されている。また「新郷土」昭和59年7月には、次のような記載がある。「平島信が国井校長にかけあい《朝日》の絵を購入したわけだが、その代金として千円説と56円35銭説がある。青木の画家としての才能を認める平島は、青木が金の苦勞もしないでゆっくりと転地療養に専念できるようにと金集めに駆け回った。しかし賛同してくれる者は少なく、結局、小城中学校の国井校長が平島の友情に感激して応じたのをはじめ、江里口悟、某、それに平島の4人が出し合

うことになった」。

「某」とはいかなる人物か。2年ほど前、大阪のある人物から話を聞くことができた。「青木繁の朝日」の購入経過について某家に伝えられている話では、小城中学校の数学の教師鴨打秀太郎が、平島信のたつての願いで《朝日》を購入することになった。しかし当時秀太郎には手持ちの金が無く、学校から借りた金で購入したという。しかし程なく青木は病のため亡くなり、購入代金は後日鴨打秀太郎が返済したということだ。当時苦心して返済していたことは今でも家族に伝えられている。(終)



小城高等学校▶

❖開館時間 9時~17時 ❖休館日 毎週月曜日・祝日 小城市ホームページから 梧竹・歴史資料館・文化財 検索
【問合せ・申込み】 歴史資料館 文化課 (桜城館2階) 担当 下川・永田 ☎71・1132